

博物館だより

No.1

平成18年5月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

「みやこ町歴史民俗博物館」スタート！

よろしくお願ひします

京都郡勝山町・犀川町・豊津町の合併にともない、旧豊津町の歴史民俗資料館が「みやこ町歴史民俗博物館」として再出発しました。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

旧豊津町歴史民俗資料館は、平成6年4月にオープンしたもので、豊津町に限らず、広く北

九州・京築地方の歴史資料・民俗資料を収集・保管・展示する施設として活発な活動を続けてきました。京築地方では唯一、博物館法に定める「博物館」として認められた施設であり、都市部の大規模博物館とは一味違った、地域資料館としての役割を果たしてきました。

当館の目指すもの

新たにスタートした「みやこ町歴史民俗博物館」には、みやこ町教育委員会生涯学習課文化係が置かれ、博物館の運営はもちろん、みやこ町の文化・文化財に関する業務が全て集約されることになりました。みやこ町には、綾塚古墳・橘塚古墳(旧勝山町)、豊前国府・国分寺(旧豊津町)、生立八幡宮神社祭・永沼家住宅(旧犀川町)など、誇るべき文化財が多数所在しています。博物館(文化係)ではそれらの文化財を、①公開・展示②保護・継承③活用・啓発する活動を積極的に進めてゆきます。

また、旧三町より続けられてきた様々な文化活動を支援し、さらなる発展のお手伝いをさせていただきます。

みやこ町歴史民俗博物館



▲博物館の位置

ていただきます。
ぜひご来館ください
当館には既に、豊前国府・国分寺関係資料や県指定文化財「小笠原文庫」(豊津高校錦陵同窓会より寄託)など、他に誇るべき資料が多数収蔵・展示されていますが、今後、旧勝山町・犀川町の資料を追加し、さらに一層充実した常設展示を作つてゆきたいと思ひます。
また、旧3町出身の学芸員がアイデアを出し合つて、企画展や各種のイベントを開催してゆきます。「みやこ」の名にかかわしい、充実した文化事業を展開してゆきますので、どうかごさのほど、お願ひ致します。

歴史民俗博物館 友の会会員登録募集！

旧豊津町歴史民俗資料館には、賛助団体として「豊津町歴史民俗資料館友の会」があり、独自の事業を行なってきました。この「友の会」は発足(平成7年度)以来、いかなる団体からも補助金・助成金を受けず、会員の会費のみで運営を続けています。年度によって違いはありますが、毎年およそ200名の方が会員登録しています。

もともと、町内者・町外者を問わず入会できましたが、三町合併を期に、旧勝山町・犀川町の皆さんに、より多くご入会いただきたく存じます。「故郷を愛するには、まず故郷を知ることから」を合言葉に講演会やバスハイク、史跡めぐりなど、様々な行事を企画してゆきます。ぜひ、ご入会ください。

【入会の方法】

博物館の窓口にて会費を納めてください。博物館の窓口まで来るのが難しい方はご一報を！

【年会費】

- ☆個人会員 3000円
- ☆家族会員 1名につき 2000円

年度途中から入会される方は月割りした会費をいただきます。

【お問い合わせ】

博物館(TEL 33・4666)まで。

新しいふるさとの魅力を見つけてみませんか？

みやこの「お宝(文化財)」拜見!

京都平野に注ぐ川の源とその流域3地域からなる新しいふるさと「みやこ町」。県下でも有数の面積となった町内には、その川(水)の恵みと長い歴史の中で育まれた様々な文化財(自然遺産・文化遺産)が残されています。

それらは地域自慢の巨木であったり祭りであったり先人の記録や造形であったりと、実に多彩かつ豊富で、地域の顔(特色)がよく表れています。そして何より、二つとない「かけがえないもの」であることからすると、文化財は私たちがふるさとを語り、理解するに欠かせない「お宝」であることが解ります。この欄ではみやこ町自慢のお宝を地域別に紹介してまいります。これから私たちが新しい歴史を刻むこの町の良さ・すばらしさを知るためのヒントにして頂ければ幸いです。

「お宝」探しのキーワード

○テーマ

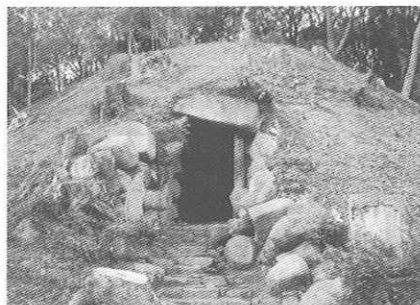
今回取り上げるのは、千五百年ほど前にふるさとを治めた人々が眠る石と土のモニュメント「古墳(こくふん)」です。

○キーワード

*古墳：古代の墳墓。三世紀後半から七世紀にかけて築かれた地域の支配者たちの墓で、墳丘と呼ばれる高い盛土を持つことを一つの特徴としています。その構造は大きく内部主体(石室・石棺など)と外部施設(墳丘・周溝など)からなり、墳丘の平面形により円・方・前方後円墳などの分類が行われています。築造に相当の労力を要する施設であることやそのシンボリックから古代社会の様子を探る指標として重要視されています。

なお豊前地方ではこの古墳を「コウヤ(郷屋・岩屋)」と呼び、身近ながらもやや特異な場として人々の間に記憶されつつけています。

○勝山地区



▲綾塚古墳前景。巨大な石室は異界の入口と考えられ、古くから信仰の対象となったようです。

長峡川上流域の沃野(稔り豊かな平野)からなる勝山地区。黒田・上田・池田と田の字地名の多い穀倉地帯で、それを束ねた首長たちの古墳が数多くあり「古墳銀座」としてその名を町外にも知られています。古墳の総数は400を越え、町域でも古墳の集中地帯であるばかりでなく、扇八幡・箕田丸山・庄屋塚といった京都地域の首長墓といってもよい規模(全長40~80m超)のものを含めた前方後円墳がいくつも築かれているのが注目されます。

こうした中であってひとときを引く存在が綾塚古墳で、その内部に築かれた巨大石室は全国屈指の規模で(奥行19m・高さ3m程)見るものを圧倒します。

景行天皇妃八坂入姫の墓との伝承があるほか、その神秘的空間は女体窟(権現)とよばれて人ならぬものの居ます場として今なお祈

りく場として生き続けています。

○犀川地区



▲古川平原古墳群のうちの5号墳。5号墳からは被葬者の骨も出土しています(みやこ町CC「いこいの里」地内)

今川沿いの盆地を基盤とする犀川地区。ここも西郷(犀川)五千石とも称される米どころで、古来一つの小文化圏を築いていました。古墳は他地区に比べるとその規模においてやや小規模の傾向が見られますが、御所ヶ岳・馬ヶ岳山麓の200基近い古墳群や特色有る古墳も多く、決して見劣りのするものではありません。そうした特色ある古墳の一つに古川平原古墳群があり、国内で古墳が築かれ始めて間もない4世紀以降の古式の古墳として注目されています。

同古墳群の1号墳は低い墳丘に土坑(素堀り穴)に木蓋を被せた葬法を用いていることが特徴で、弥生時代以来の伝統的墳墓の特徴を引き継いでいることが確認されています。

○豊津地区

祓川中流域の沃野と豊津台地からなる穀倉地帯で、古来京都平野でも根拠を占める地として続いており、弥生時代の王墓・徳永川の上遺跡や、豊前国府の存在がそれを裏付けています。

古墳にもその歴史がよく反映されていて、小規模墳としては八景山古墳群が隣接する竹並横穴墓群(行橋市・約一五〇〇基)とともにわが国有数の古墳墓群を形成しています。大規模墳としては甲塚方墳があります。この古墳は6世紀後半に造られたとみられますが、三段からなるピラミッド状の墳丘は長辺46m、とこの時代としては九州最大級であり、仲津郡の首長であるとともに古代豊前を統べた首長・豊国直のような人物の墓と見られています。



▲甲塚方墳前景(南から)。特異な形状は行き交う人々にその存在を誇示したことでしょう。